

夕刊
3月23日
(金曜日)

発行所 日本経済新聞社
東京本社 〇(03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 〇(06)7639-7111
名古屋支社 〇(052)243-3311
西武支社 〇(092)473-3300
電子版アドレス
<http://www.nikkei.com/>
購読のお申し込み
〇120-21-4946
<http://www.nikkei4946.com>



看護師の対応を患者目線で体験できる

360度のパノラマ動画を見ることで、まるで映像の世界にいらるような体験ができる仮想現実（VR）。ゲームなどに使われてきたが、暮らしの現場でも用途が広がっている。認知症患者の視界を再現したり、ワーキングマザーの日常がリアルに体験できる。サポートを必要とする人が、実際どんなことを望んでいるかを身近に考えることに役立っている。

看護師の対応 課題発見

「認知症患者の立場になることで、新しい気づきや発見がある」
大阪大学准教授で、認知症ケアが専門の山川やえさんは指摘する。山川さんは2017年、認知症患者の疑似体験VRの開発に携わった。10月に授業の教材として使い始め、10人ほどの看護学生が体験した。VRは頭に装着するゴーグル型の機器を用いて映像を見る。画面は認知症患者の目線と同じで、自分自身が患者がガーデニング中に倒れ、病院へ運ばれたところから始まる。
映像では、余裕のない看護師とベテラン看護師の2パターンを体験できる。余裕のない看護師は患者がベテラン看護師の2パターンを体験できる。余裕のない看護師は患者がベテラン看護師の2パターンを体験できる。

子育てと仕事 両立体験

ツドで暴れるため息をつき、点滴を自ら抜いてまうと強い口調で注意する。一方、ベテラン看護師は身ぶり手ぶりを交えて状況を詳しく説明し、点滴を抜いてしまった場面では「大丈夫ですが、ごめんなさいね」とやさしくなだめる。VRを体験した大阪大学大学院の大浜悦子さんは「余裕のない看護師は『大丈夫ですよ』と繰り返していたが、説明がなく、何が大丈夫なのか分からなかった」と話す。「その場しのぎの対応は患者を不安にさせてしまうことを学んだ」
現役の看護師研修でVRを導入するのは、京都大学医学部付属病院だ。看護教育を担う古谷和紀さんは「患者目線は大切だが、実際に患者になって共感することできない点に限界を感じていた」と話す。

VRの評判は上々。同病院の内藤知子助教は「映像を思い出し、患者へ丁寧に対応することができた話に接することができた」と話す。京大病院は今後、認知症VRを老人看護だけでなく、外科などを含めた科に導入する予定だ。認知症VRの制作を手掛けた、シルバーウッド（東京・港）の河原忠道代表取締役は「コンテナは他にも、看護師だけでなく、介護士などに向けたものもある」と話す。
リクルートホールディングスは、ワーキングマザーの日常を疑似体験するVRを開発した。グループ全体の約2割の社員がワーキングマザー。子育てと仕事の両立支援として、マネジメント研修に導入している。VRでは実際に子育て中の社員を役者に起用。働く姿や保育園への迎え、夕飯作りなど的一天を体験する。「会議が17時からだと延長保育が前提」「翌朝の資料は手もが寝てから作るしかない」など、ワーキングマザーの心の声が聞こえてくる仕組みだ。
「様子を見たり声をかけをするなど、よりいっそう気を配るようになった」。こう話したのは、リクルートマーケティングパートナーズ（東京・中央）の杉一輝さん。6人の部下を率いており、うち2人が子育て中だ。「仕事を交わってほしいとき、本人から言いづらな場合がある。いまは自分が率先してチームに共有している。同社は現在、社外のセミナーなどでVR体験を催している」。

VRの利用はゲームや映像鑑賞などが中心で、こうした教育や研修の場の活用はまだ少ない。身近な人が求める支援や協力を具体的に感ることができただけに、幅広い分野で利用機会が増えることが期待される。（田村匠）



看護師は専用のゴーグルを装着してVRを体験する（京都大学医学部付属病院）

VRは、専用のゴーグル型機器を使うことで360度のパノラマ映像などが楽しめる。足元上空、後ろを振り返って映像が流れ、映像の中にいるような錯覚になる。ゲームや映像鑑賞をはじめ、物件に訪れなくても間取りを見て雰囲気を感じられる「VR内見」などに使われてきた。葬儀関連の情報サイトを運営する鎌倉新報は2月、VRで霊園を見学できるサービスを開始した。東京都と神奈川県にある100以上の霊園が対応している。VRを装着してVRを体験する（京都大学医学部付属病院）

患者・母の世界

象。VRならば足の悪い高齢者でも見学することができ、複数の霊園を簡単に比較することも可能だ。

日本総合研究所の東秀樹さんは「近年の技術革新によって性能もよくなり、製造コストも安くなった」と、VRが広がった背景を説明する。

一方で課題もある。東さんは「いまは物珍しさから手に取る人が多く、実用的なVRが広がるのはこれから。教育や研修の場での用いには『VRがないと業務にならない』というレベルにまで質を高めることが必要」と指摘する。

生活